

景況実感調査(2020年9月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適當な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 物がタイトになり相場も週単位でじり高傾向。メーカーからの入荷が遅いため販売チャンスを時々逃している。採算重視にシフトし黒字化を目指す。
- ② 稼働日数20日と対前月4日増なるも荷動き動向は前月と変化なし。建築関連は、その他の製造業と比べても遅行傾向となるものだけに、中小物件を中心とした諸口店売り分野の回復時期はまだ先になると思われる。新内閣の規制改革やデジタル化推進 etc. は、新規の需要を生むことにつながると考えられるので期待したい。国内薄板在庫の減少は続き、市況好転の素地は整いつつあり、メーカー、流通共に不退転の状況。
- ③ 9月は前月比微増となり、コロナ前と比べて2割減の水準である。徐々に回復傾向にあった需要も先行きあまり良い話が聞こえてこないことから、現状の水準がしばらく続くとしている。
- ④ メーカーからの入荷が遅れていて在庫がタイトになっている。値上げも実行されているので大切に売りたい。
- ⑤ 8月のマイナス分を9月で少し取り戻した感じだ。10、11月と、この好調子で景気が戻ることを願っている。

中板

- ① 実需では、建機で10~12月に10%強増える見込みである。店売りは高炉メーカーの能力ネックから必要数量が申込み出来ず仮需が発生している。
- ② 7月に3年ぶりに400万トンを超えた薄板三品在庫は、8月末にも減少するなどメーカーの減産が奏功しており、コイルセンター在庫もこの数カ月で3割減少し、歯抜けも顕著となって、店売り分野では引合いも増えてきて市況回復への環境も整ってきた印象である。ただし、需要そのものに盛り上がりがあると見通すことはできず、市況の上昇はまさに実需の伸びに掛かっている。このような状況下、店売り材を中心にメーカー値上げが表明されているが、ユーザー紐付き価格を上げない以上、またしてもこれまで同様、コイルセンター等の下部流通が負担を強いられることに間違いはない。

厚板

- ① 稼働日が前月比4日間も多かったにもかかわらず、販売量は同比横ばいに止まった。前年同月比では4割程度の減少となっており、極めて厳しい状況である。建産機関連主要ユーザーの稼働は低迷しており、全く回復が見られない。土木案件も物件の小型化が目立ち重量に繋がらない。素材販売は前月比にて増加したものの、引合いのあるのは建築部門の一部に限られる。足許の回復は見込まれないことから、年度末に向けて受注が改善することを願いたい。

— 舟安开形鋼

- ① 表向きの売上高・数量・粗利はスポットの受注により前月比増加した。8月が余りにも悪かった点もあるが。しかし、問題はスポット分を除外した1日当たりの売上高が8月よりも悪化している点だ。通例として9月は秋需の開幕となるが、歯止めの掛からぬ逆の事態に驚愕している。コロナ禍とはいえ、原料高による市況対策も必要だが、今まで傍観者だった飲食や旅行関連業界の苦しみが現実とならぬことを願う。
- ② 9月上旬は8月と同様に低調な荷動きであったが、9月中旬以降まとまった引合いが増加。稼働日も8月より多く好転となった。ただし、価格については値上げを実行できず、様子見状態。値上げアナウンスを10月も継続。1,000円/トンでも値上げしたい。

工工开形鋼

- ① 9月は、8月比数量は増加したが、日当たりでは減少。例年であれば秋需の兆しが感じられるはずも、今年はその様子もなく厳しい秋が予想される。数量を望むのが困難であることから、市況を上げて適正なマージン確保に注力するしかない。
- ② 8月の倉出しは微増。前年同月比は微減。今月は土木向けの引合いが増えているが、前年比では物足りない状況。物件が少なくゼネコン、ユーザーからの指値が厳しい状況。

異形棒鋼・鉄線

- ① 原料高による製品値上げでメーカーの販売姿勢は強気であるが、市中の荷動きは8月以降閑散。大型物件のみ予定通り施工されているが、中小物件は少なく、じり貧傾向で流通の採算はさらに悪化している。
- ② 鉄筋置場の動きは8月9月10月と20%悪い。秋需も無い。この低位が常態化しそうな感じもする。メーカーが強く、10月中旬には2円/トン程度値上げしなければならぬ。
- ③ 前月比では営業日数の関係で増えている。前年比では、土木建築向けの鉄筋、鉄線はそれなりに出ているが、古紙用ナマシ材の中国への古紙輸出が止まっているのと、コロナ等の影響で1割程度売上が落ちている。
- ④ 今後、建築業界も益々厳しくなると予想する。

平鋼

- ① メーカーの追加値上げに伴い、値上げをお願いしている。一部仮需も発生しているが、荷動きも回復しているとは言えない。10月は稼働日も多く、月量としては増えてくると思われるが、まだまだ油断できない。
- ② 各平鋼メーカーの値上げがあり、値上げを速やかに転嫁していく。

車径量开形鋼

- ① 9月は前半の店売りが予想以上に悪く苦戦した。10月に入ってもあまり変化がないので、今年の秋は苦しいと思われる。
- ② 前月比、稼働日数分のみ売上関連が上昇。景況に好感なし。

鋼管

- ① 絶対的にはまだ低い水準だが、4~6月比出荷が増加。メーカー値上げ発表、在庫過剩感後退、公共工事(国土強靱化向け)増加など、潮目の変化を感じる月だった。
- ② 需要環境に変化なく、前月同様低調横這い。先行き引合いも弱く苦しい状況が継続。
- ③ 日当たり出荷量は8月とほぼ変わらず、9月としてはリーマン後の最低レベルに近い。シーズンの若干の回復を期待したが先行きも不透明感が強くなっている。

構造用鋼

- ① 需要動向は、一部自動車関連で生産が上向くも、建産機向けは回復途上。店売り、紐付きともに迫力を欠き停滞感がある。出荷量は前年度同月比 2～3 割減。在庫数量は発注量の抑制で微増に止まっている。価格は、一部安値も散見されるが現行値での推移を見込む。

磨棒鋼

- ① 6～7 月を底に回復傾向の兆しが見えてきたが、実態としては数量の伸びはまだ鈍い状況。自動車、建機向け紐付き品の出荷は一部を除き 10 月以降に再開の話が多い。小口販売も僅かではあるが出荷が増えてきてはいる。ただし、ミニマムな在庫量で充分充足されていることから、当面在庫量の積み増しは控えて、コスト低減を優先としていく。

その他

<鉄スクラップ>

- ① スクラップの発生量は依然として低調。目先の相場は弱含みだが、世界的にスクラップ不足の状況は変わりなく、長期的に見ても大きく相場が下がることないのでは、と考えている。

<金属表面処理>

- ① 9 月は紐付き、物件物とは計画通り。スポットは前月が非常に少なく、今月は 30% 増。小口ではあるが少しずつ引合いも増加傾向にあり、10 月も同水準での操業となりそうである。